

国連主催の世界情報社会サミットが12月に開催 2015年までに世界の半数の人々を インターネットアクセス可能にする

情報通信に関する初めてのサミット「世界情報社会サミット (WSIS)」が今年の12月に行われる。それに先駆けてWSIS親善大使の久保純子氏が、WSISの準備を主導している国際電気通信連合 (ITU) の事務総局長である内海善雄氏を表敬訪問して話を聞いた。インタビューは10月12～18日に開催された「ITUテレコムワールド2003」の直前にジュネーブのITU本部で行われた。聞き手の久保氏は7月に日本の親善大使に任命されたが、目下「IT」に関して勉強中だ。

WSISでは、どのようなテーマが議論されるのですか。

内海: 国連が主催する各国首脳レベルの国際会議で、「情報社会」について経済や文化、技術など幅広いテーマで議論されます。情報社会をテーマにして首脳レベルが集まる会議としては、世界で初めての開催となります。そして、情報社会についての将来を議論する非常に前向きな会議です。また、単に各国の政府だけではなく、民間企業や市民団体なども集まって議論するという従来にはないユニークな国際会議なのです。さらに、最初から2回にわたって開催することが決定していることも珍しいことです。

開催の経緯は?

内海: もう5年近く前になりますが、1998年11月に米国のミネアポリスで開催されたITU全権委員会会議の中で、チュニジアから提案されました。その後検討して、国連の各機関が「非常に重要な会議だからぜひやろう」ということになりました。国連に提案したのが情報通信技術を扱う国際機関のITUだったので、サミットのリーダー役としてITUが準備を進めてきました。

それでITUが主導しているんですね。

世界初の会議として首脳レベルが集まる意義は何でしょう。

内海: 情報通信技術は、さまざまな可能性を秘めています。これを世界のリーダーたちが正しく認識して、社会への影響や役割などについてもしっかりと捉えたうえで各国の国内政策を策定しなくてはなりません。それが第1点です。また、いわゆるデジタルデバイドをいかに解消していくかという問題があります。開発途上国と先進国の格差、あるいは一国の中でもたとえばお年寄りや若い人の格差、男女の格差、情報通信技術の使い方がわかっていて使える人と使えない人など、さまざまな格差が生まれています。こうした格差を解消していくというコミットメントを得ることが2点目です。

さらに、3点目は現在の情報通信技術が従来の社会や法制度の想定範囲を超えているので、新しい枠組みの必要性について議論することです。ネットワークが隔々まで張り巡らされる情報社会では主権国家の枠を越えて情報が飛び交って完全に国境がなくなりますから、これまで国ごとに対応していけば良かったことも各国が協調して対処していく枠組みがなければいけません。

3つの意義を挙げてくださいましたがなかでもデジタルデバイドの解消は早急に議論されなければいけない問題だと思います。どのような議論が展開されるべきだとお考えですか。

内海: まずは情報通信技術が普及するためには、通信ネットワークなどのインフラストラクチャーを整備しなければなりません。残念ながら世界にはまだ100万以上の村で電話すら使えていない状態です。こうした地域のインフラを整える必要があるでしょう。また、通信インフラが整っていてもコンピュータやインターネットを使ってコミュニケーションするには、その利用方法がわから



内海善雄 ITU事務総局長

ないといけません。ですから、技術のノウハウを持っている人たちが伝授することが重要です。あるいは、使い方がわかってネットワークやアプリケーションがなければeガバメントやeコマースなどは構築できません。単に物資を配布すればいいというものではないのです。そうした意味で、ネットワークなどインフラの整備と同時に、人材の育成や使い方の研究、こうした取り組みに関する資金の必要性などが議論されるでしょう。

そうすれば、劇的に世の中が変わっていきますね。

内海: サミットで宣言したからと言ってそれが世界に劇的な変化を直接もたらすわけではないでしょうが、現在は特に先進国を中心に大規模な情報通信革命が起きています。この現状から振り返ると、私は産業革命で人類は失敗したのではないかと考えます。産業革命前は世の中のすべてが農業社会であり、国によっての差はあまりありませんでした。その後、産業革命により先進国は一段と発展して、開発途上国は遅れてしまって大きな格差が生まれました。今回の情報通信革命で同じような失敗を繰り返せば、人類にとって大変な悲劇にな



久保純子(NHK アナウンサー)
WSIS親善大使

ってしまいます。

情報通信技術というのは、ネットワークとコンピュータさえあればどこにいても世界中の市場にアクセスできるということです。産業革命のときほど投資しなくてもインフラを整備することはできるでしょう。あとは知恵さえあれば、開発途上国も先進国に追いつける特徴を持っているわけです。ですから、開発途上国の方々は大きな希望を持っています。それに対して少しでもお役に立ちたいのです。だから、サミットで世の中を劇的に変えると言うよりは少しでも良い方向へ改善できればいいと考えます。

 **情報社会と言えばセキュリティを始めたインターネットのさまざまな問題について世界的に関心が高まっていると思われませんが……。**

内海: インターネットの普及や活用法はサミットでも議論されるでしょう。セキュリティについても、ウイルスの蔓延をどのように解決したらいいかということなどが取り上げられるかもしれません。こうしたことは技術的にどう防ぐかということと同時に、一国では対処できない問題ですから世界的な法的取り締まりをどう行うかといったことも視野に入れなければなりません。しかし、

世界中の意見を一致させることは至難の業です。インターネットについては、草の根的な発想や活動から発展してきたという歴史もあって、政府の関与や規制に対してはさまざまな意見があり、サミットの準備会合でもその是非をめぐって意見の対立が見られました。

 **このサミットでは全世界の半分以上の人がインターネットにアクセスできるようにする目標を作ると伺っています。**

内海: おっしゃるとおりです。いずれもまだ最終案として意見が一致しているわけではありませんが、2015年までにそうしたいと考えています。大きな目標ですが、実現できればたしかに世の中が変わるでしょう。そのために今回のサミットでは、情報社会はいかにあるべきかという原則や共同認識を述べた「宣言」を採択します。たとえば表現の自由や情報流通の自由が認められて確保されなければ情報社会が成立しないというのが大原則でしょう。そこから人材教育や技術移転が行われなければ情報社会は形成できないと考えます。また、宣言に

則った「行動計画」も策定します。日本ではe-Japan戦略がすでに動いていますが、世界の国々ではまだそうした戦略がない国も多いのです。そこで、2005年までに世界中の各国が情報技術社会の戦略を策定するという行動計画案が議論されています。

 **大変よくわかりました。最後にWSISに向けての抱負を聞かせてください。**

内海: 文化や技術の側面、あるいは政府や市民団体、企業とあらゆる方面にわたる幅広いサミットになると思います。そのため、さまざまな意見が出て調整が非常に難しいとは思いますが。しかし、21世紀の社会を格差のない社会にすることを目指すには情報通信技術が非常に大きな役割を担うはずで、ぜひとも意見をまとめてサミットを成功させます。

 **私も親善大使として、より多くの方々にWSISを知っていただけるようにがんばりたいと思います。ありがとうございました。**

世界情報社会サミット(WSIS)の概要

目的

- ・情報社会に関する共通のビジョンの確立と理解の促進
- ・ビジョンの実現と協調的な発展を図るための宣言と行動計画の策定

開催時期と場所

2003年12月10日～12日 スイス ジュネーブ
(第2回会合は2005年11月16日～18日 チュニジア チュニス)

主催者

国連(ITUが準備を主導)

参加者

各国政府(首脳レベル) 国際機関、民間企業、市民社会(NGO)など

関連行事

2003年12月8日～13日までWSIS本会合の隣接会場で、展示会やワークショップが開催される。日本は「ユビキタスネットワーク社会の展望」をテーマにワークショップや展示・デモンストレーション、モバイルコンテンツフェスティバルを実施する予定。

世界情報社会サミット親善大使

 <http://www.soumu.go.jp/ws-is-ambassador/>

ITU WSIS

 <http://www.itu.int/ws-is/>